

■ロータリー財団の未来の夢計画とは？

2007年にロータリー財団は100周年を迎えます。この100周年を迎えるにあたって、ロータリー財団をもう一度見直しをし、時代のニーズに合ったものに変えていこうとしたのが、2013-14年度からスタートするロータリー財団の未来の夢計画です。

これまでのロータリー財団は、プログラムの数が多く、使い勝手が悪かったり、複雑で分かりにくいと言う意見が沢山ありました。

そこで、世界中のロータリアンにもアンケート調査を行い、**もっと地区にいろいろな権限を移行するとともに、ロータリアンがよりロータリー財団を身近に感じていただけるように**との思いで、2005年の国際ロータリーの100周年を機に、この未来の夢計画の準備がスタートしました。

2009-10年度までに原案が作成され、ロータリー財団管理委員会や国際ロータリー理事会で承認されました。そして、2010-11年度より世界中で100地区がパイロット地区（試験地区）に選ばれ、3年間のパイロット期間（試験期間）がスタートしました。日本からも6地区がパイロット地区に選ばれました。

このパイロット地区に選出された地区より、いろいろな改善案を出していただき、2013-14年度よりいよいよロータリー財団の未来の夢計画が世界中で一斉にスタートすることになります。この未来の夢計画の導入によって、

- 1.地区補助金は新地区補助金となり、分配率と使用内容が変わり、地区で使用できる補助金は大幅に増えます。
- 2.グローバル補助金が新設されます。
- 3.クラブの計画・申請・承認は、すべて前年度に行います。

未来の夢計画は2013-

14年度から始まることにはなっていますが、実際には2012-13年度から始まると言った方が良いでしょう。2013-14年度は、未来の夢計画の実行年度にあたりますが、クラブで行うプロジェクトの計画、申請、承認は、前述の通りすべて前年度に行うこととなります。ですから、2012-13年度は、その計画年度として大変に重要な位置にあります。地区もクラブも事前に準備をしなければならぬことがたくさんあり、お互いに協力をし、その準備をして行くこととなります。

未来の夢計画によってロータリー財団は、私たち全てのクラブのための財団になります。今までのように財団独自のプログラムを消化すれば良いプログラムから大きく変化します。

つまりロータリアンの為の財団に変わる訳です。プログラムも各クラブのロータリアン自らが創造し、且つ、自らが活動するものになると言っても良いかと思えます。

ロータリー財団の補助金を活用し、より充実したプロジェクトを行うために、いろいろな方法を考え、計画・実行して行きましょう！

次の表は、これまでの経緯を一覧表にしたものです。

未来の夢計画のこれまでの経緯

- ・2005年4月：管理委員会が未来の夢委員会の任命を承認
- ・2005年12月：世界中の一万人以上のロータリアンを対象に未来の夢アンケート調査を実施
- ・2006年4月：管理委員会が、未来の夢計画の初期の提案の一部：使命、標語、理事会の優先事項を承認
- ・2006年6月：管理委員会が、5番目の理事会の優先事項を承認し、財団プログラムの包括的な評価を実施することを事務総長に許可
- ・2007年6月：管理委員会は新補助金モデルの概念に同意し、このモデルの基本が財団資源
- ・2007年10月：管理委員会は、新しい補助金構成に同意し、重点分野を選ぶよう、未来の夢委員会に要請
- ・2008年2月・3月：未来の夢委員会は、新しい補助金構成、重点分野、資金調達、新しい予定表などのプランを決定
- ・2008年4月・6月：管理委員会、RI理事会が新しい未来の夢計画を承認
- ・2009年7月：世界中より100地区をパイロット地区に選出
- ・2010年7月～2013年6月：3年間のパイロット期間を実施

■ 今までのプログラムとの変更点

変更前	変更後
地区補助金	<p>新地区補助金となります。</p> <p>今まで地区補助金に申請をいただいていたプロジェクトはほとんどそのまま移行されます。(※未来の夢計画実行年度からは、「新」の文字がとれることになっています。)今までは人道的プロジェクト、環境保全プロジェクトに限定されていましたが、今後は教育的プロジェクト等にも使うことができます。</p>
マッチング・グラント	<p>新地区補助金に該当する場合</p> <p>6つの重点分野に該当しないプロジェクト、またはWF(国際財団活動資金)から最低補助金額が今までの5,000ドルから15,000ドルに引き上げられましたので、プロジェクト予算を組んでいただき、この最低補助金額に達しないプロジェクトは、新地区補助金への申請となります。ただし、この場合には、WFからの補助金が付きません。新地区補助金からの補助金のみとなりますので、クラブからの拠出金と新地区補助金からの補助金でプロジェクトを行うこととなります。また、申請時期も限定されます。後述の「新地区補助金」の項をご覧ください。</p> <p>グローバル補助金に該当する場合</p> <p>6つの重点分野に該当し、上記のWFからの補助金額の最低限度額をクリアするプロジェクトの場合、グローバル補助金の申請ができます。この場合は、申請時期は通年OKとなります。プロジェクト資金は、クラブからの拠出金、地区DDFからのグローバル補助金に更にWFからの補助金がプラスされますので、大きなプロジェクトを行うことができます。後述の「グローバル補助金」の項をご覧ください。</p>
国際親善奨学金	<p>国際親善奨学金の制度は廃止となりますが、新地区補助金とグローバル補助金の条件をクリアする場合は、通常のプロジェクトの申請と同様に奨学金を申請することができます。詳細は、後述の「奨学金」の項をご参照ください。</p>
研究グループ交換 (GSE)	<p>職業研修チーム(VTT)として新たにスタートします。後述の「VTT(職業研修チーム)」の項をご覧ください。</p>
ロータリー平和フェローシップ	<p>今までと同様で、変更はありません。DDFからのロータリー平和センターへの寄付を行います。後述の「ロータリー平和フェローシップ」の項をご覧ください。</p>
ポリオ・プラス ポリオ・プラス・パートナー 3H補助金 文化研修のための国際親善奨学金 大学教員のためのロータリー補助金 地域オリエンテーションセミナー補助金 低所得国のための国際親善奨学金 ボランティア奉仕活動補助金 災害復興	<p>今までと同様で、変更はありません。DDFよりポリオ・プラスへの寄付を行います。後述の「ポリオ・プラス」の項をご覧ください。</p> <p>制度は廃止になりますが、新地区補助金とグローバル補助金の条件をクリアする場合は同様なプロジェクトを申請することができます。</p>

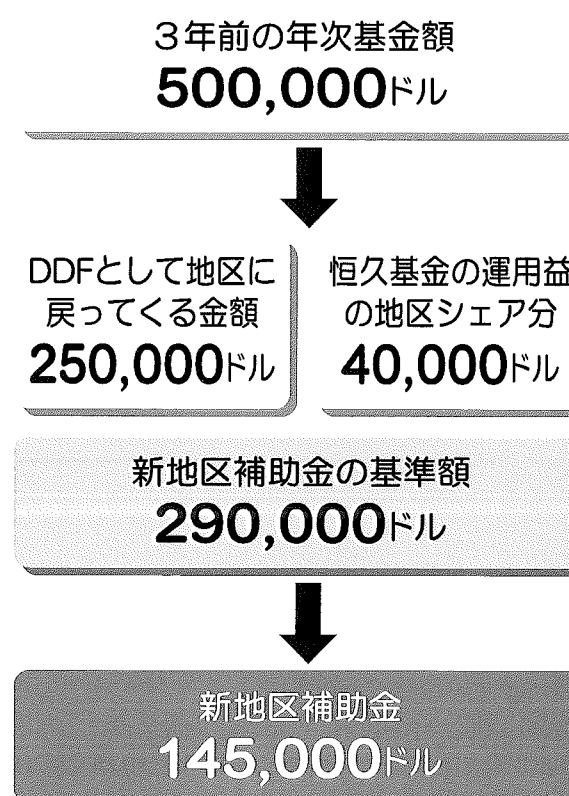
■ 新地区補助金とグローバル補助金のしくみ

① 新地区補助金 (DG)

3年前の年次基金の50%がDDF(地区財団活動資金)として、地区にその配分が任せられます。

このDDFに恒久基金の運用益の地区シェア分を足した金額の50%を上限として、新地区補助金(DG)に使うことができます。(前年度からの繰越金は含まれません。)

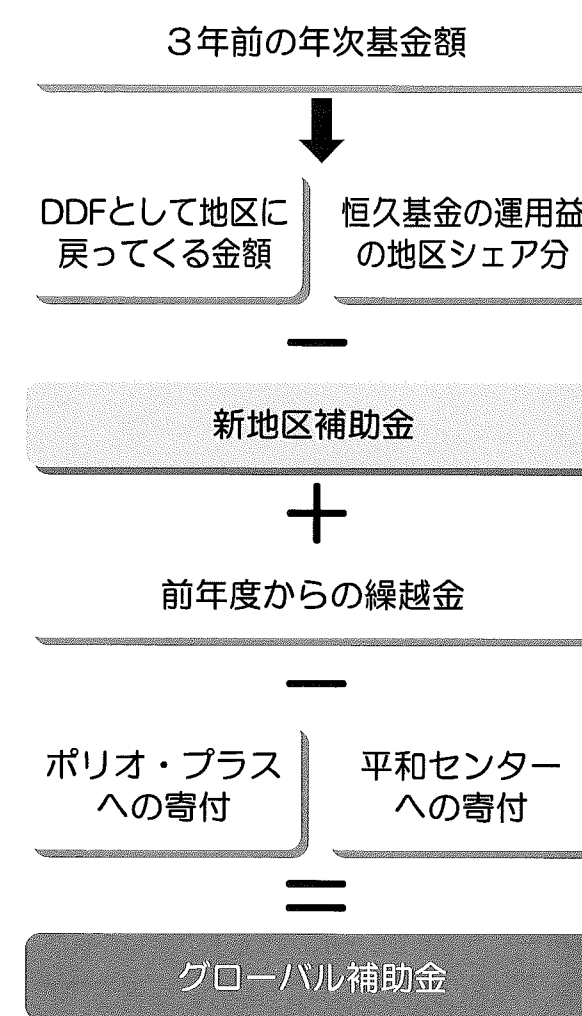
たとえば、3年前の年次基金が500,000ドル、恒久基金の運用益の地区シェア分が40,000ドルだったとしたら……。



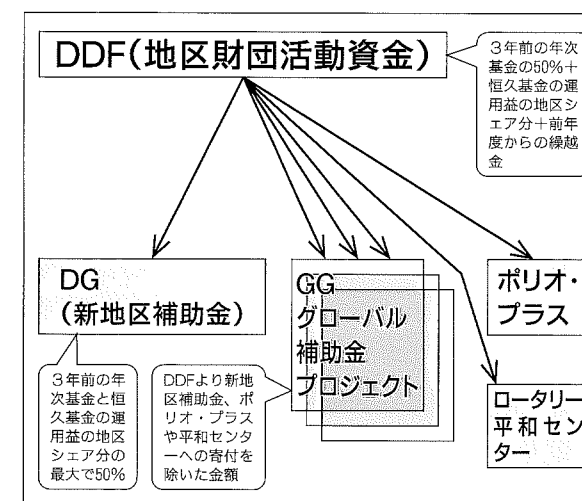
② グローバル補助金 (GG)

DDFより新地区補助金分を差し引いた金額に、前年度からの繰越金を足して、更にそこからポリオ・プラスへの寄付と平和センターへの寄付を差し引いた金額がグローバル補助金の予算額となります。

図式にすると、以下のようになります。



③ 以下の図式は、新地区補助金とグローバル補助金の関係を図式にしたものです。



(ロータリー財団 未来の夢ハンドブックより抜粋)